2011 年 3 月 10 日

各位

MediciNova, Inc.
代表取締役社長兼 CEO
岩城　裕一
コード番号：　4875　大証 Jasdaq
問合わせ先：　東京事務所代表　副社長
岡島　正恒
電話番号：　03-3519-5010
E-mail：　info@medicinova.com

イブジラストの薬物依存症適応を対象とする特許（米国）承認のお知らせ

2011 年 3 月 9 日　米国　サンディエゴ発　-　メディシノバ（MediciNova, Inc.）（米国カリフォルニア州　サンディエゴ、代表取締役社長兼 CEO：岩城裕一）は、米国特許商標局からイブジラストの薬物依存症適応に対する特許承認の通知がありましたことをお知らせいたします。MN-166 または AV411 として当社が開発している化合物イブジラストは、神経因性疼痛、薬物依存、進行型多発性硬化症を初めとする神経症状に対する治療薬候補として、当社が開発に注力している医薬品候補です。

本件の特許は、イブジラストを単体または他の医薬品との併用で、オピオイド依存または離脱症状に対する治療目的で投与することを範囲としています。イブジラストはマクロファージ遊走阻止因子(MIF)及びホスホジエステラーゼ-4(PDEs-4)、ホスホジエステラーゼ-10(PDEs-10)に対する非オピオイド阻害剤であり、さらに、グリア細胞の活性化を抑制する作用も認められています。こうした細胞作用は、オピオイドまたはメタンフェタミンのような薬物依存症に関与するある種の神経化学的な変化及び行動上の変化と関連していることが実証されています。今回の特許承認は、リンダ・ワトキンス博士を初めとするボルダーのコロラド大学の研究スタッフ及びメディシノバのチーフ・サイエンティフィック・オフィサー、カーク・ジョンソン博士の研究に基づいて与えられました。前述のとおり、今回承認を受けた特許請求の範囲には、モルヒネやオキシコドン*（Vicodin®）のようなオピオイドの服用を中止または減らした患者に見られる離脱症候の治療や、それと関連するグリア細胞の活性化の抑制などが含まれています。さらに、オピオイドの一種で、オピオイド依存の治療薬としてすでに認可されているブプレノルフィン（Suboxone®）との併用も含まれます。

イブジラストは、日本で、喘息及び脳梗塞発作後の症状の治療薬としてすでに 20 年以上使用されており、さらに当社が行った多発性硬化症及び神経因性疼痛を適応とする臨床試験では、より高い用量が投与され、良好な結果が出ています。薬物依存研究の専門家による、コロンビア大学とニューヨーク州精神医学研究所との共同研究及びUCLAの臨床試験などの治験計画が、NIDA からの支援につながり、それぞれオピオイド離脱及びメタンフェタミン依存を適応とする前臨床及び臨床試験が行われています。これらの薬物の濫用は今日も公衆衛生上の重要課題であるものの、臨床的に未だに有効な医薬品による治療法がありません。オピオイドまたはメタンフェタミン依存を治療する非オピオイド医薬品は現在全くなく、イブジラストは、臨床研究が進められている数少ない新しい治療法のひとつです。

以上

メディシノバについて

メディシノバ（Medicinova, Inc.）は、日本内外の国際的製薬企業との提携により有望な低分子化合物を導入し、様々な疾患領域の新規医薬品の開発を主として米国で行う公開製薬企業です。弊社のパイプラインには、喘息急性発作、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、多発性硬化症を始めとする神経疾患、神経因性疼痛、薬物依存、喘息、間質性膀胱炎、固形癌、全般性不安障害、切迫早産、尿失禁など、多様な疾患の治療を目的とする 6 つの臨床段階の化合物と、血栓症治療を目的とする 2 つの前臨床段階の化合物が揃っております。メディシノバは、当面その戦略として、喘息急性発作及び COPD の治療薬 MN-221 と多発性硬化症及びその他の中枢神経系疾患治療薬 MN-166/AV411 との 2 つの優先的開発化合物に資源を集中して開発を進めていく予定です。MN-221 については、米国内で独自に開発を行い、一方 MN-166/AV411 については、開発に際して、戦略的な提携関係を構築することを考えております。また、他の製品候補につきましても、現金化を試みて参ります。弊社詳細につきましては http://www.medicinova.jp をご覧下さい。メディシノバの所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市ラ・ホイヤ・ヴィレッジ・ドライブ 4350、スイート 950（電話 1-858-373-1500）です。

このプレスリリースには、1995 年米国民事証券訴訟改革法（The Private Securities Litigation Reform Act of 1995）に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、製品候補の治療法としての新規性および効能を実証する臨床試験に関する記述、既存または将来の臨床試験の計画や目的および製品開発に関する計画または目的に関する記述などが含まれます。このような記述には、臨床試験の結果、現段階の臨床試験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するものではないこと、将来の臨床試験のタイ

ミング、費用、計画など、臨床試験、製品開発および商品化に付随するリスクや不確定要素、FDAに対して書類を提出するタイミング、当社の戦略の失敗、第三者との提携構築、アヴィジェンとの合併により、イブジラストに関する開発プログラムを統合することにより期待される戦略的、財務的メリットを実現する可能性、イブジラストに関する開発プログラムを進めるための戦略的提携交渉、または、資金調達の可能性、知的財産権や契約上の権利を始めとして、当社が米国証券取引委員会に提出した届出書に記載されているものも含めたその他のリスクや不確定要素など、その多くは当社のコントロールが及ばないいくつもの前提、リスク、不確定要素の影響を受けるものであります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。

（ご参考）

* オキシコドンとは、オピオイドの一種で、鎮痛効果はモルヒネの 1.5-2 倍といわれています。